

# 国際交流

平成 9 年 9 月 30 日 創刊  
 平成 30 年 3 月 31 日 発行 (第 40 号)  
 二松学舎大学国際交流センター  
 〒102-8336 東京都千代田区三番町 6-16  
 Tel: 03-3261-5751

◆目 次◆

|                                   |                                 |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 二松学舎大学と海外の大学との協定締結…………… 1         | 中国・浙江工商大学 黄 柳雅倩…………… 8          |
| 平成29年度 夏期短期海外語学研修（英語圏）実施報告…………… 2 | 中国・浙江工商大学 史 姪姪…………… 9           |
| 文学部          3年 宮脇 朱音…………… 2      | 中国・浙江工商大学 石 魯豫…………… 9           |
| 国際政治経済学部 3年 松川 裕丈…………… 2          | 中国・浙江工商大学 湯 孟桃…………… 10          |
| 平成30年 春期短期海外語学研修（韓国語圏）実施報告        | 秋 Semester                      |
| 文学部 2年 三角 理紗…………… 3               | 中国・浙江工商大学 王 琦…………… 11           |
| 平成29年度 派遣留学修了報告                   | 中国・浙江工商大学 陳 延延…………… 11          |
| 文学部 3年 高橋 怜那…………… 4               | 中国・浙江工商大学 李 暁…………… 12           |
| 文学部 4年 山田 歩美…………… 6               | 中国・浙江工商大学 李 丹…………… 13           |
| 平成29年度 交換留学生修了報告                  | 平成29年度 留学生との国際交流の会報告…………… 14    |
| 春 Semester                        | 平成29年度 国際交流年末懇親会報告…………… 14      |
| 台湾・中国文化大学 孫 季榆…………… 7             | 平成29年度 日本語・日本学特別プログラム報告…………… 15 |
| 中国・北京大学 劉 麗…………… 7                | 海外大学研修派遣協定合意に基づく教職員の来訪…………… 16  |
|                                   | 国際交流センターからのお知らせ…………… 16         |

## 二松学舎大学と海外 7 大学との協定締結

平成29年度に、以下の7大学と新たに交流協定を締結しました。

- バッキンガム大学（英国）
- 嘉興学院（中国）
- 浙江外国語学院（中国）
- 浙江越秀外国語学院（中国）
- 浙江農林大学（中国）
- 河南大学（中国）
- 鄭州大学（中国）

今後も海外協定校の拡充を積極的に行うと共に、実りある国際交流活動を推進してまいります。



バッキンガム大学（英国）



嘉興学院（中国）



浙江越秀外国語学院（中国）



浙江農林大学（中国）



浙江外国語学院（中国）



河南大学（中国）



鄭州大学（中国）

## 平成29年度 夏期短期海外語学研修（英語圏）実施報告



### アイルランド ダブリンシティ大学

文学部3年 宮脇朱音

今回私はアイルランド・ダブリンシティ大学に短期留学しました。アイルランドに着いて最初に思ったことは寒！でした。八月夏真っ盛りなのに上着を着て過ごしました。また出発する前のガイダンスで日本よりも治安が良くないから注意するようになると言われ、留学は勿論海外も初めてな私はとても不安でしたが、実際に行ってみると自然豊かなのどかな街で現地の人々もとても優しく何度も助けられました。

海外で他国の人と授業を受けるということはとても新鮮でした。日本の授業と言えば学生は基本黙って先生が話すというもので「静かにしなさい」という言葉はとても馴染み深いものでしょう。しかしアイルランドでの授

業は先生や生徒同士で話したり、ある生徒の昔話を聞いたりして授業をするという感じでした。逆に先生が「静かすぎる！」と言う時もありました。英語という言葉を学んでいるからなのか正しいか否かというよりも話してなんぼというように感じました。あと地味に驚いたのが海外には電子辞書がないということでした。

アイルランドに留学した私たちの宿泊先はホームステイです。ここで苦戦したのが現地の人達の英語でした。訛りなのか私たちが習ったアメリカ英語とは発音が違うことが度々あり混乱に陥りました。それでも過ごしていくうちに耳が慣れ少しずつ聞き取れるようになり会話が出来るようになっていくのが嬉しかったです。

初めての海外ということもとても不安でしたが新たな発見や初体験が多く、参加してとても良かったと思いました。

最後に家族や親戚、関係者の方々そして一緒に参加した皆さん本当にありがとうございました。



ダブリンシティ大学



### 英国 ケンブリッジ大学 ホマートンカレッジ

国際政治経済学部3年 松川裕丈

8月13日ヒースロー空港に到着し、私の約三週間の留学生活が始まりました。ロンドンの中心から北に向かって1時間（鉄道）ほどのところに、ケンブリッジはあります。ここには、いくつもの大学や研究所が集

まっており、学ぶ場としてこの上ない環境が整っています。その1つが、私たちの通ったホマートンカレッジです。大学の施設は、ハリーポッターのような重厚な校舎と現代の校舎がバランスよく調和し、緑に囲まれた素晴らしい大学です。授業は、午前と午後に分かれ、午前中は、ほぼ毎回異なる分野の講師によってテーマが設定され、その講師と一緒にクラス全体で、テーマに対して議論していきます。午後は、クラスごとの担任に、「イギリスの文化やマナー、音楽など」を学びました。クラス

に関しては、初回の授業で行う「スピーキングテスト」と「ライティングテスト」を基に、レベルごとにクラス分けが行われます。また各クラスにはTA（現地の大学生）が付いてくれています。授業中には、一人の先生として、一人一人に声をかけ、授業に対する理解を助けてくれます。授業外では、一人の友人として、一日の喜びや悲しみを共有し合い、時には、一緒にロンドン観光やストーンヘンジなどの世界遺産巡りもしました。まさにイギリスの友人です。もちろん全て英語で「会話・授業」をするので、ストレスも感じます。しかし、自分の発言に対して誰かが共感してくれたり、そこから会話が盛り上がった時は、英語を話す自信がきます。この留学は、私が目指しているグローバルリーダーになる第一歩になったと信じています。



ケンブリッジ大学ホマートンカレッジ

## 平成30年 春期短期海外語学研修（韓国語圏）実施報告



### 韓国 高麗大学校

文学部2年 三角理紗

#### 短期海外語学研修の参加を決めた理由

日本語を全く使わない環境に行けば今以上に成長できる、また旅行では感じる事の出来ないホームステイならではの家庭の雰囲気や文化に触れることができる良い機会だと思い留学をしようと決めました。

#### 研修先の雰囲気（キャンパスや先生たちの雰囲気、現地学生との交流等）

学校の敷地はとても広く晴れた日には、中庭でランチを楽しんでいたりと、運動場で体を動かしている学生がいました。また校内には映画館があり高麗大学校の学生なら安く映画を見ることができます。ビルディングの二松学舎とは違い敷地が広い高麗大学校は様々な施設が揃っていました。

現地の学生と触れ合うことができるトウミ活動では、相手が必ずしも日本語ができる訳ではないので上手くコミュニケーションを取る事ができるだろうかという不安もありましたが、こちらが聞き取れない場合はもっと簡単な単語に変えてくれたりジェスチャーで伝えてくれました。また、トウミから頻繁に「これは日本語で何て言

うの？この言葉はどういう時に使う？」など質問され、それをどう韓国語に訳して分かりやすく伝えるか、頭をよく使いながら会話するため疲れますが普段なかなか出来ない経験でした。また授業では教わらない最近流行っている若者言葉を教えてくれたりと教科書では勉強できない事を学ぶ良い機会でした。

私は以前から韓国の方は面倒見が良いと感じていました。それは留学に来てからも十分に感じ、トウミに行きたい所を伝えると詳しく調べてくれたり、こまめにSNS



高麗大学校

でメッセージをくれたりと現地にいる間とても頼れる存在でした。

#### 学習の内容(授業内容、先生の印象、課題・自習の量等)

登校初日にクラス分けテストが行われいくつかのクラスに分けられました。私のクラスは全員日本人で人数は9人でした。授業はもちろんオール韓国語の授業です。先生は日本語が分かりませんが、授業を進めていく中でこまめに意味を理解しているか確認して下さるので着いて行けないという事はありませんでした。ですが、オール韓国語で授業を受けるのは初めてで少しでも気を抜いたらいくらこまめに確認してくれるとはいえ着いて行けないのでとても緊張感がありました。

教科書にそって授業は進みますが、時間がないので幾つか選び勉強していきました。教科書の例文を音読してから問題集をやり、次に自分で例文を作る、の繰り返しでした。また毎週金曜日には課題が出されそれを発表するテストがありました。日本のことわざの意味、どのような時に使うか例を考える。そして、自分が今まで見た公演を紹介するという二つの課題でした。課題を進めていくうちに、いかに韓国語の語彙力がないのか気付かされました。ですが、ホームステイ先のお母さんに手伝ってもらいなんとか完成し発表する事が出来ました。

#### 現地での生活の様子

(思い出になったこと、楽しかったこと、大変だったこと、驚いたこと、困ったこと等)

私がお世話になった家庭ではほぼ毎日、食後にデザートを出してくださり私がイチゴが好きだと話をすると祝日の3月1日にイチゴ狩りに連れて行ってくれました。韓国でイチゴ狩りに行くのは初めてで、最初に農園の方

から説明のあった注意事項は言葉が速く聞き取れませんが、ホストファミリーの子供と一緒に取りに行こうと言ってくれたのでなんとか食べる事ができました。韓国のイチゴ狩りは日本と違い、収穫してもその場で食べられません。箱に摘んで重さを計ってから食べる事になっていました。それからイチゴ狩りの後にオドゥサン統一展望台に連れて行ってくれました。ここは韓国から最も北朝鮮を見る事ができる場所です。寒かったので少しだけ説明してもらった後に望遠鏡を覗いて細かいところを見ました。天気が少し曇っていたのはっきりと見る事は出来ませんでした。貴重な体験ができました。

#### 宿泊先(寮/ホームステイ)の環境/居心地

もちろん他人の家なので気は使いましたが、お母さんもおばあちゃんもとても気さくな方で、自分からお願いしなくても「課題あるなら子供達と一緒に見てあげるから持ってきて下さい」と毎日声をかけてくださいました。

ホームステイ最後の夕食は事情があり二松学舎の友達も1人一緒に食べる事になりました。

その時はまだ私が食べたことのないカムジャタンを食べに近所の食堂に連れて行ってくれたり、とてもよくしていただきました。

#### 今回の研修で得たもの(語学力がどのくらい伸びたか、外国語について意識は変わったか等)

放課後以外は全て韓国語を使って生活しなければならなかったため、留学に行く前よりもスラスラ話したせいで、徐々に目が慣れてきて街を歩いたり、電車に乗っていてハングルを瞬間的に読めるようになったと感じました。

## 平成29年度 派遣留学修了報告



### 韓国 成均館大学校

文学部中国文学科3年 高橋怜那

私は、2017年2月から2017年12月まで韓国の成均館大学校に留学してきました。私は、高校生頃から韓国語を勉強していて、韓国への留学は韓国語を勉強する上での大きな目標でした。実際に

帰って来てからは、やはり行って良かったなと思いました。

語学堂(大学付属の語学学校)に通ってみると、他の国の学生達との交流がとても多かったです。いわばクラスメイトなので、一緒にご飯を食べたり、登下校を一緒にしたりしました。もちろん授業でも、協力をして活動をしました。アンケート調査を二人一組で行うなどクラス内の交流も盛んでとても楽しかったです。沢山の国の



濟州島で友達と

学生が集まるので、文化も様々です。なので、日本はこんな文化がある、ドイツはこんな文化がある…などをお互い韓国語で話していることが私はとても嬉しかったです。国ごとに学生の雰囲気も違って、いろんな学生と出会えて楽しかったです。韓国語の勉強もしつつ他の国の事も知ることができる機会はそうそうない経験だと思います。また校外学習では、韓国の伝統音楽であるサムルノリの体験など韓国文化の体験もできてとてもいい経験になりました。

後期からは、韓国人の学生と一緒に一般の授業を受けました。最初は聞き取れるかとても不安でした。授業を受けてみたら、やはり難しいものが多かったです。韓国の歴史の授業では、内容量が多くて、名前なのか地名なのか最初はよく分かりませんでした。それを、担当の教授に話したところ、段々慣れていくから心配ないと言われました。その教授の言葉の通り、段々と慣れていきました。教授は日本に関心が多い方だったので、日本の歴史事例も交えて教えてくださったので、分かりやすかったです。現代性・グローバルコミュニティ・韓流という授業があったのですが、「現代性・グローバルコミュニティ」という言葉が何か分からず無視して、「韓流」という言葉に釣られて受講申請をしましたが、あまり関係なく、グローバルコミュニティが主な内容でした。最初は抹消しようか考えましたが、内容を聞いてみると、移住労働者、外国人留学生など、私に関係があると思い、授業を聞いてみることにしました。初めて学ぶ分野だったので、専門用語を覚えたり大変でしたが、自分が関心を持っていなかった分野の授業も受けれて、いい経験になりました。

寄宿舎での生活でも他の国の学生との交流が多かったです。最初の寄宿舎は6人部屋で、台湾人3人、中国人1人、日本人2人でした。6人部屋だったので毎日がとても賑やかでした。キッチンが共同だったのもあって、作った料理を分け合うなどもしました。また、それぞれの国のお菓子やお土産を配ったりもしていました。大人数の共同生活は初めての経験でしたが、お互いを尊重し、配慮することで最後まで仲良く暮らすことができました。夏休み中は寄宿舎を出て、前の寄宿舎でルームメイトだった日本人の子とコシテルで生活をしました。コシテルというのは、日本では聞きなれないと思いますが、韓国にはとても多いです。ワンルームよりも狭くて比較的家賃は安いんです。アパートよりも寮のような施設です。また、コシテルによって様々だとは思いますが、私が住んでいたコシテルは白米とラーメンが無料で、キッチンとトイレが共同でした。大学の近くというのもあってか、私と同じくらいの年代の住人が多かった気がします。留学生も多いようで、管理人さんは私の拙い韓国語もちゃんと聞いてくれて、ゆっくり話してくれました。コシテルから引越す時もお見送りをしてくれて、韓国の「情」を感じました。韓国での共同生活を通して協調性を養う事ができました。

今回の留学を通して、韓国語はもちろん、一般の授業を受けたり、韓国人の友人と過ごしたりして、文化的な



カフェで友達と

知識も身につけることができました。韓国だけでなく、外国に関心を持つことはとても大事なことだと思いました。留学というのは、留学先の人だけでなく、同じ留学生として来ている他の国の留学生と出会ってグローバルな交流が出来ることも良い点だと思います。私は留学して本当に良かったです。サポートして下さいました、国際交流センターをはじめとする二松学舎の教授の皆様ありがとうございました。



## 韓国 成均館大学校

文学部中国文学科4年 山田歩美

2017年2月25日から交換留学で行っていた韓国から帰国しました。

韓国は旅行で何度か行ったことがある程度で、長期間にわたって生活する

のは初めての経験でした。旅行をしているだけでは見えない、韓国の色々な面を見ることができました。

二松学舎大学に入学する時から韓国へ留学をしたいとずっと思っていました。思ったまま3年生になってしまい、残り1年という4年生での留学をしました。授業でも韓国語は週に4回程あるので十分に勉強できる環境ではありましたが、もっと韓国語能力を上げたいという気持ちが強かったので、就職活動を1年遅らせてでも留学

することを決めました。

初めの半年は語学堂（大学付属の語学学校）へ行き、韓国語のみを勉強しました。日本人のクラスメートもいましたが、ほぼ他の国だったので最初は、どうなるか不安でしたが最後まできちんとやりきることが出来ました。残りの半年は、韓国人と同様に正規授業を取りました。韓国人ばかりの教室は、授業中質問が飛び交い、日本の大学の講義の雰囲気とは違いました。韓国人ばかりなので難しい問題や、理解がすぐできない単語があったりして少し苦勞しましたが、自分なりに予習復習をしていたため、きちんと単位を取ることができました。

また私は4年生のため、卒業研究も併せて進めていかなければいけなかったのが少し大変でした。テスト期間と締め切りが被っていたため、どうなるか心配でしたが、なんとか最後まで終えることができ、提出できたので良かったです。

韓国にいる間は、3回ほど風邪を引いたり、お腹を壊したりして、病院に行くこともありました。海外の病院ということで、最初は右も左もわからない状況でしたが、語学堂で習った韓国語を使ってつたない韓国語で病状を説明したり、先生の話の聞いたりして、良い経験ができたかと思います。

韓国で約1年生活し、たくさんの方々に会い、たくさんの方々に支えられて、無事韓国への交換留学を終えることが出来ました。この留学で得たことを、これからの就職活動で生かすことができたらと思います。



後輩たちと共に

## 平成29年度 交換留学生修了報告（春 Semester）



### 目に映る宝物

台湾・中国文化大学 孫 季榆

早すぎた日々、早すぎた時間、何もかもがあまりにも早く過ぎていき、日本に来た日をまるで昨日のこのように感じ、まだ台湾に帰る実感がわかりません。

留学してから、いろいろ貴重な体験をしました。初めての一人旅や、初めての一人暮らし。そして友人との初めての秋葉原。最初は少し未知な環境に怯えていたが、先生と友人のおかげですぐに慣れ親しんでいった。

日本の美しさに私自身で触れ、日本は素晴らしい国であると私は感じました。文化、人、風景、行儀、何もかもが美しい。たとえば夏の花火大会の打ち上げ花火は綺麗だし、電車に乗っている時も、人々は必要な人に笑顔で席を譲っている。こんな穏やかで心温まる日常を私は好きですし、日本を心から好きだということを自身で確信している。

あっという間の一年間でありましたが、私はいろいろな人と出会い、いろんなことを学んだ。日本で得たものすべてが、私のこれからの人生の栄養になるだろう。たとえそれが怒り、悲しみであろうとも。ある人が言った、「別れるのは、今後の再会のため」。だから、その



友人とヤンキーの真似をしてる

再会の時のため、しばらく別れよう。またお会いしましょう。我が愛しい日本。



新宿御苑にて



### やりがいがある、この旅

中国・北京大学 劉 麗

初めての海外生活だったため、何もかもが新鮮に見えました。この一年間の暮らしを表わすならば、とても楽しかったです。そのなかでも二松学舎大学で日本風の教育を受けたり、京都や仙台などに旅行へ赴いたり、日本の祝日や伝統的な祭りを体験したりすることができたからです。

また、この学校で日本人の友達も出来ました。彼らは日本語を教えてくれるだけではなく、ボウリングやカラオケなど遊びにも連れて行ってくださいました。

しかし、私が一番に感謝したいのは、先生達です。碁石先生からは日本古文に関する本を何冊も貰い、ゼロから勉強を始めた古文が、少し読めるようになりました。清水先生には、授業を教えてくれるだけではなく、いろいろな相談に乗ってくださいました。その時の先生の優しい笑顔は私は忘れません。その中でも指導教諭である稲田先生には特別に感謝したいです。先生には、ここでは書ききれないほどたくさんお世話になったことは、私は一生忘れることはないでしょう。稲田先生は私の一生



熱海の桜

の先生です！

まだほかにも感謝したい方が、たくさんいます。

皆様のおかげで、この日本での生活は楽しく過ごすことができました。



## 留学生活

中国・浙江工商大学 黄 柳雅倩

4月5日、その日は私にとって、忘れられない日になりました。

静かな早朝に、私が乗っていた飛行機が羽田空港に到着しました。ようやく日本という国に出会うことができた、と私はそう思いながら、空気を胸いっぱい吸い込んで、「おはよう」と、心の中で初対面の日本に挨拶をしました。これからが忙しい1日の始まりでした。いろいろな手続きが終わってから、学校に向かっている途中で、素晴らしい景色が目に入りました。ちょうど桜が満開の時期で、そよ風が吹いて、花びらが雪のように舞い、空気までもがピンク色に染まっているののように見

えました。こういう夢みたいなシーンを楽しむことができ、幸せだなあと思いながら、疲れも不安も一瞬で吹き飛んでしまいました。

生活面では、シェアハウスに住んでいるため、たくさんの外国人と出会いました。最初は恥ずかしかったけれど、みなさんがやさしく話しかけてくれたりして、会話をすることができて本当に感謝しております。時にはパーティーを行い、自分の国の料理を作って提供し、みんなで一緒に飲みながら、ごちそうを楽しむことができ、とても楽しかったです。

勉強面も順調に進んでいきました。万葉集、日本民俗、日本語文法など、深く理解したとは言えませんが、少し触れることができました。塩沢先生の授業では、万葉集の歌を分かりやすく説明してくれて、グループで話し合ったり、自分の考えを出したりすることができ、われわれ留学生にとって、非常に有意義な時間だったと思います。

あっという間だった留学生活がそろそろ終わりを迎えます。この半年間は、多くの方のおかげで、本当に楽しく、充実した留学生活になりました。いつか、きっとまたみなさんと会うことができると信じています。



美しいディズニーシー





## 東京との出会い

中国・浙江工商大学 史 姪姪

光陰矢のごとし。

半年間の日本での留学生活が、あっという間に過ぎてしまいました。この半年間は長いようで短い時間を感じました。日本や文化について学ぶことができ、いろいろな人と出会い、いろいろなことを経験し、これからの長い人生の糧となる、素晴らしい経験であったと思います。振り返れば、日本にいる半年間は、喜びもあり、涙もあり、とにかく感慨深い収穫の多い半年間でありました。

昨年4月に、初めて日本の地面を足でしっかり踏みしめた時、新鮮、興奮、不安、焦り……これらの気持ちを抱きながら、教科書やテレビの中での「日本」と、ずっと憧れていた留学生活がいま現実になる。初めて中国から出て、初めて日本に入って、初めて外国で勉強をし、初めて生活を送り、初めて……、この数え切れないほどの「初めて」の中、私の留学生活の幕が開きました。



江ノ島にて

日本に着いたばかりの時は、桜がちょうど満開で、本当に綺麗でびっくりしました。その一週間後、新学期が始まりました。実際に日本で生活や勉強をしてみると、中国で教科書から学んだ知識と日本語では全く足りないことに気付かされました。だから、日本語の基礎を固めるために、文法の授業を選びました。日本の文化をもっと深く理解するために、文化講義という授業も選びました。また、自分の興味があるレベルに基づいて他の授業も選びました。いずれの授業でも、いろいろな知識を身につけられるようになり、これからの勉強にとっても有益だと思いました。

とにかくこの半年間で、4月の桜から8月の花火大会、鎌倉の海から熱海の温泉、現代の東京から古めかしい京都……、日本の風物詩と景色をたくさん満喫しました。たった半年でありましたが、日本での生活は私にとって一生忘れられない思い出になりました。

日本、またね。



## 憧れの日本 ——私を成長させた！

中国・浙江工商大学 石 魯豫

4月5日から今日まで日本に留学にきてから、もう半年になってしまいます。光陰矢の如し、いろいろなうれしいことを思い出しました。

日本に来て初日、朝の5時半に羽田空港で、出迎いの二松学舎大学の先生となかなか会えなかった時は不安になりましたが、出口で先生と出会った時に、その温かさにあふれた笑顔で私の不安は瞬時に吹き飛びました。その日は、無事に自分がこれから住む花小金井宅に到着しました。

選んだ授業については、優しくてもユーモアがある江藤先生から、一週間に4回か5回の授業を受けるようにアドバイスを頂きました。一週後、町先生、江藤先生、谷口先生と森先生の授業が始まりました。知識について、理解できない時には町先生がゆっくり説明してくれました。期末に自分の研究内容についてレポートを出す等、中国の試験とは全然違うと思いました。

日本では、中国と全然違うことを体験する機会がたくさんあります。生活、学生の洋服、電車、料理、神社等。



友達と浅草寺の前で

たとえば、浅草寺、上野公園、秋葉原、京都、新宿公園に行きました。その時には友達と一緒に、本当に心から楽しめました。もちろん、その体験がもっと日本の文化を深く理解させてくれた、一生忘れられない思い出になりました。

短い留学でしたが、自分はちゃんと日本語を練習し、「ちょっとぐらい間違えてもいいじゃないか。」と取り組み、確実に日本語が上達したと思っています。

最後に、二松学舎大学の先生方には、お世話になりながらも色々心配もしていただき、心から感謝致します。

憧れの日本は私を成長させてくれました。またね、東京、二松学舎。



## 出会えてよかった

中国・浙江工商大学 湯 孟桃

4月5日、ようやく私はずっと憧れていた日本に来ました。来たときはちょうど東京の桜が満開の時期でしたが、大通りの桜を見て、ついに日本に来られたという実感が湧きました。やはり日本の桜は素晴らしいなと思いました。

最初から何もかもが新鮮でした。日本なりの生活スタ

イルはもちろん、毎日電車に乗って、町に歩いて私にとってそれらはとても奇妙な体験でした。日本に来てからすべてに慣れるまでに大体二週間はかかりました。そして、日本が大好きになりました。

日本にいる時間をできるだけ豊かに過ごしたいと思い、友達と一緒にいろいろなところへ遊びに行きました。鎌倉やディズニーランド、どんなところでも良い思い出を作ることができ、友達との旅行は楽しかったです。しかし、私は一人旅も好きなんです。時間があれば私は一人でよく都内を散策しました。これからの夏休みには、関西のほうへ遊びに行きたいと思っています。

また、二松学舎大学の授業で勉強した知識は、自分の分野に役に立つと思い、特に、日本文化と万葉集については詳しく勉強をしました。今後時間があれば、日本の祭り文化を研究したいと考えています。

そして、今住んでいる花小金井のシェアハウスも本当に好きです。ハウスのみんなは優しいし、生活するには便利だし、友達もたくさん出来たし、みんなで一緒に作った思い出はいつまでも記憶に残っています。

人と人との出逢いも別れもどれも絶対に無意味なこととは思いません。わずか数ヶ月の間で、出逢った先生もクラスメートもよく知らない他人もみんなと出逢えてよかったと思っています。

人のいつかどこかでの生活は、きっとその人の人生の一部になります。私にとって、今までの人生において、日本にいた半年間の生活は一番特別だったと思います。

光陰矢の如し。残念ですが、交換留学はもうすぐ終わります。みんな、いつかまた会いましょう。



ディズニーランドにて友達と一緒に

## 平成29年度 交換留学生修了報告（秋 Semester）



## 私と二松の縁

中国・浙江工商大学 王 琦

知らず知らずのうちに半年間の留学生活がまもなく終わろうとしております。日本で体験したいろいろな事が頭に浮かんできます。私と二松学舎には二度の縁があって、2016年12月に桜サイエンスプランで二松学舎に初めてやって来ました。

あの時、色々な先輩の案内で二松学舎のキャンパスを見学したり、江藤先生の授業を受けたりしました。二松学舎をよく知り、魅了されてからずっと留学したいと思っていました。そして9月に交換留学生として、やっと二松学舎に来ることの夢が叶いました。

日本に来てからの生活面では、国際交流センターの三島さんをはじめ色々な先生のおかげで、すぐに日本の生活に慣れていきました。12月に国際交流センターの誘いで年末懇親会に参加して、色々な人と出会い、みんなでシールを集める交流スタンプラリーというゲームで遊びました。最初はちょっと緊張しましたが、みんなが私に



富士山にて



ディズニーシーにて友達と一緒に（筆者左から一番目）

話しかけてくれるうちにだんだん盛り上がり、目標の10個のシールを集めることができました。学習面では、町先生の授業で自分の研究についての発表をし、貴重なアドバイスをいただき、本当に助かりました。普段はよく学校の図書館と国立国会図書館に行って、修論について重要な資料をたくさん集め、論文を進展させることができました。

休日に友達と横浜、高尾山、富士山やディズニーシーに行きました。これからも、沖縄や大阪、京都に行く予定です。日本の美しい景色と半年間の留学生活は一生忘れられないと思います。

帰国しても、二松学舎との縁は必ずまた続くと思います。日本、二松、またね。



## みんな、ありがとう

中国・浙江工商大学 陳 延延

9月から2月まで、半年間の留学生活のために、私は2年間の準備をしました。幸い、私の一生の中で、日本での半年間はきっと大切な体験になりそうです。

日本に来る前は、ドキドキしながら、いろいろなことを心配していましたが、日本に到着した時に、空港まで



築地市場の場外食堂で撮った写真 筆者は右から2番目

迎えに来ていただき、国際交流センターの先生たちも様々な手続きを手伝ってくれて、大変助かりました。国際交流センターの皆さん、本当にありがとうございます。

勉強については、本屋さんに行って翻訳用の資料を探したり、雑誌を読んだりしました。授業では先生とクラスメート達に親切にいただき、いい勉強になりました。11月に学校で創園祭が行われ、国際交流センターの先生たちが留学生の皆さんを集めて、様々なサークルの活動に参加しました。部活の皆さんは元気で、面白かったです。12月に国際交流センターで、平成29年度国際交流年末懇親会を行いました。多くの先生や、学生、父母会のお母さんたちも参加して、みんなでおいしい料理を食べたり、面白いゲームをしたり、お互いに交流することができ、とても楽しかったです。みんな、ありがとうございます。

住んでいるシェアハウスでも時折いろいろな活動が行われます。お餅つき大会とか、いろいろな国の人と一緒に協力することもまた、いい経験だと思いました。シェアハウスの皆さん、ありがとうございます。

今までいろいろなところに旅行に行きました。横浜の中華街、お台場、東京湾、東京タワー、ディズニーシー、隅田川、浅草寺、江ノ島など。どの旅行もいい体験だったと思いますが、その中でも何十羽の鳶が青い空で円を描き、波が逆巻き、数名のおじさんが腰を下ろして魚を釣る、このような美しい場面を見られた私は感動させられました。一生忘れません。

みんな、ありがとう！



## ありがとう

中国・浙江工商大学 李 曉

昨年の9月に東京に着いたときのことが、いまでもはっきりと目の前に浮かんできます。ですが、留学生活もうそろそろ終わりに近づいています。別れを告げるのは悲しいことですが、同時に、幸せでもあります。これまでの思い出が幸せなものだからです。

この半年間、二松学舎大学で素晴らしい先生の授業を受けてきました。町先生と江藤先生のおかげで、修論に関する資料を集めて、修論は少しずつ進んでいます。

私は日本の自然の美しさに溺れていました。日本に着いてから、友達と鎌倉、江ノ島、高尾山、新宿御苑、富士山、横浜などへ観光に行きました。江ノ島の海の青色、夕焼け空に包まれた富士山、高尾山と新宿御苑の紅葉、お台場の花火大会、ディズニーシーの幻想的な世界と激しさ……言葉で表せないほど美しかったです。帰国する前に沖縄、新潟、関西地方にも観光へ行く予定をしており、日本の美しさを更に満喫したいです。

10月の日本はハロウィンの雰囲気で満ち満ちていました。初めて日本人の友達とハロウィンパーティーに参加し、ハロウィン当日に渋谷の賑やかさをこの身体で体験



ディズニーシーにて友達と一緒に



ディズニーシーに向かうところ

し、日本人の若者の異文化に対する情熱を実感しました。

私が住んでいるところのすぐ近くにある武蔵野神社と新宿学園神社へのお祭りも見に行きました。日本の伝統文化として、祭りはなんと素晴らしいイベントなのでしょう。祭りは神様に感謝をし、お祈りするばかりではなく、周りの人々を繋げる存在だと思えます。

この短い半年間、自分の視界が開けて、今まで知らない日本のより細かいところにまで接することができました。様々な人々に出会って、みんなにお世話になって、本当に感謝しています！

またね、日本！ ありがとう、日本！



## 交換留学感想文

中国・浙江工商大学 李丹

日本に来た時のことは、まるで昨日の出来事のように覚えています。あつという間に帰国の準備に追われる時期になりました。この短い半年間を振り返ってみると、楽しいことばかりではありませんでしたが、充実した大切な時間でした。留学して最初の頃は、日本語という壁にぶつかり、跳ね返され、不安で帰国したいという思いがありました。しかし、しばらくすると、この得がたいチャンスを活かして、日本語の上達に繋げようと思

えることにしました。そして、鎌倉と横浜への旅行も楽しい思い出になりました。

また、交換留学中に二松学舎大学では江藤先生、町先生、小山先生の授業を受けました。江藤先生の授業は常にいろいろな話題について話し合い、たくさん勉強になりました。町先生と小山先生の授業では自分の研究内容を発表して、多くの貴重なご指導やご意見をいただき、また、研究資料を集める方法なども教えていただきました。本当に感謝しております。そして、学校で中国語を勉強したいという日本人の友達も出来ました。毎週火曜日に学校で一緒に勉強して、本当に楽しい時間でした。中国の友人はもちろん、日本の友人との交流からもたくさんのお話を学びました。

留学の間に、自分の生活習慣も大分変わってきたと思います。日本に来る前は、手帳というものを使ったことが一度もありませんでした。約束や予定などは全部頭の中に入れていました。日本に来て、手帳を持っていない人をまだ見たことがないほどで、最初は不思議で面倒くさいと思っていたけれども、一回使ってみるともう手放せないほど頼りにするようになりました。小さいことですけれど、私にとっては、なかなかいい習慣ができたと思っています。



横浜にて、友達と共に

## 平成29年度 留学生との国際交流の会報告

本学の外国人留学生による異文化交流を目的とした「留学生との国際交流の会」を、創縁祭当日の平成29年11月4日(土)に九段校舎4号館にて、初開催しました。

「国際交流の会」は、外国人留学生の日本語ビデオメッセージ、留学生との交流、留学相談を盛り込んだ総合的な国際交流の行事です。会場内の大型モニターでは、留学生が日本の文化をテーマにした日本語によるビデオメッセージの映像が常時流れ、会場内には多数の留学生が来場者と会話をしており、会場はまるで海外のよ

うな雰囲気となることもありました。

外国人留学生による日本語メッセージでは、アイドルの話、花火にでかけたときのエピソード、好きな料理、研究テーマなどさまざまな日常の出来事をスピーチ形式で紹介しました。ふだんの日本語で一生懸命に話す留学生の様子は、飾らない自然体でとても好感がもてるものでした。創縁祭に訪れた高校生や本学学生など一般来場者が何度もビデオメッセージを鑑賞している様子が印象的でした。



## 平成29年度 国際交流年末懇親会報告

平成29年12月2日(土)に、平成29年度国際交流年末懇親会を実施しました。

アルカディア市ヶ谷(鳳凰)に、外国人留学生、教職員、父母会役員、本学国際交流サポーター学生、短期語学研修参加学生など合計70名が集いました。

高野和基副学長から父母会による国際交流活動への協力に感謝を述べる挨拶に続き、南條麻里父母会長から力強い乾杯のご発声をいただき、会が始まりました。

懇親会では、今年初めて実施したケンブリッジ大学短期海外語学研修の様子(本学学生の英語による研究発表)と外国人留学生の日本語メッセージを大型モニターに映して紹介しました。異国の地で活躍する本学学生と留学生の様子に、会場から自然と拍手が起きました。

国際交流サポーター学生による余興として、出席者全員参加による楽しいビンゴ大会を行ないました。貴重な本学オリジナルグッズ(創立140周年デビットカードや本学ブランドのワインなど)が賞品として用意されていたこともあり、この日一番の大きな盛り上がりをおも

る大歓声に包まれました。

参加学生同士の親睦と交流を目的とした「交流スタンブラリー」も開催され、本学国際交流サポーター学生と留学生だけでなく参加者全員が会場内のあちこちで談笑しており、終始、会場内はわきあいあいとした温かい雰囲気となりました。

最後に、塩田今日子国際交流センター長から、閉会の挨拶があり、盛況のうちに閉会となりました。



## 平成29年度 日本語・日本学特別プログラム報告

今年度から、本学文学部と中国の海外協定校との間で「日本語・日本学特別プログラム」がスタートしました。本プログラムは、本学と協定を締結している中国の日本語学科を有する大学から、日々日本語学習に励んでいる学生を1年間本学で受入れる留学プログラムです。初開催となった今年度は、中国浙江省にある3大学（浙江外国語学院・嘉興学院・浙江越秀外国語学院）から計39名の留学生が来日しました。

プレースメントテストの結果に基づいて、39名の留学生は、初級・中級・上級クラスに分けられ、日本語の授業や学部一般開講の授業を、年間を通じて受講しました。また授業以外の大学の行事として、以下の活動も行いました。

- 7月6日（木） 歓迎会
- 7月9日（日） 日本文化体験①（歌舞伎鑑賞会）
- 7月28日（金） 日本文化体験②（富士山方面日帰りバス旅行）
- 11月4日（土） 創縁祭（国際交流の会）
- 1月31日（水） 修了式、日本文化体験③（生け花教室）、日本文化体験④（温泉体験）

このほかにも、日本での生活に慣れてきた学生は、夏休み期間などの授業時間外にアルバイト活動を行った学生もいました。また大阪や北海道などの遠距離への旅行



柏校舎 図書館前にて（来日当初）

を行う学生もいたなど、各自が日本での留学生生活を十分に満喫していました。

また住居についても、本学留学生以外にも様々な国・地域から来日した外国人が居住する安全で衛生的な学生寮（シェアハウス）を準備しており、大学の中だけでは知り合うことができない交流関係を構築できた様子で、寮の中でホームパーティーを行ったり、夏には日本の風物詩である花火大会を寮の屋上からみんなで鑑賞する等、充実した日々を過ごすことができたようです。

今回のプログラムに参加した学生の中には、帰国した後も、さらに日本語学習を継続し、母国の大学を卒業した後に再来日し、大学院や日本語学校へ進学を希望する学生もいる等、今後日本と中国の架け橋となるような有望な人材が出てくることが期待されます。

次年度（平成30年度）は、今回参加した3大学に加えて、浙江工商大学、浙江農林大学、河南大学からも本プログラムに参加を希望する学生が出てきており、より良いプログラムとなるよう準備しています。



歌舞伎鑑賞会



歓迎会



日帰りバス旅行（忍野八海にて）

## 海外大学研修派遣協定合意に基づく教職員の来訪

平成29年 4 月24日（月）、今年度から新規海外語学研修先となった英国ケンブリッジ大学ホマートンカレッジから国際プログラム担当者 Stewart Eru氏が本学を訪問されました。

高野和基副学長と対談後、本学学生を対象に、現地と同じ形式で英語による模擬授業を実施しました。



## 国際交流センターからのお知らせ

本学では、英語圏、中国語圏、韓国語圏への短期海外語学研修や派遣留学の機会を提供しています。詳しくは国際交流センターまでお問い合わせください。

◇本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。 E-mail : icenter1@nishogakusha-u.ac.jp